

大阪城

2024
5/16 (木)
14450 号

全港遊
西成分会

2247
6647-
4947

少し先だが、 $\frac{2}{3}$ から一万円札、五千円札、千円札が
新しくなるといい。電車、鉄道関係、銀行などは
運賃や入金の機械を、新しいものにほぼ切り替えて
いるようだ。夜中にやっているのだろう。新札、旧札、
両方と読みとるコンピュータの設計図(ソフト)を入れ
かえるのだらう。中小の商店などは、金もかかるとい
からの店もあるといい。対応がたへんだといっている。
一万円札は福沢から「日本資本主義の父」といわれる
渋沢栄一(1840~1931年)、五千円札は樋口一葉から、女子美術
塾(現津田塾大学)の創設者、津田梅子(1864~1929年)、千円札は
野口から北里柴三郎(1853~1931年)近代日本医学の父とい
われる微生物学者にかわる。世界的には、スマホや
タブレットを使うこのデジタル通貨が検討に入っていて
使用実験もされるようだ。将来、紙や金属の硬貨は
なくなる方向に動いている。現代世界です。
しかし、現実の経済生活では、円安で物価高インフレ
名目の賃上げは、大手大企業業中心、実質賃金の賃金は
目盛り減額しつつづけている。又、政府日銀の政策
転換で、マイナス金利から高金利の世界へじわり
と動きはじめている。倒産もふえてきているし、
人、員整理、解雇の報道も多くなってきた。サイフ
のヒモとしめながら生きていく社会に動いています。

20%から25%,年度末から落ち込み それでも昨年度よりはまだまし数字

毎朝の求人の状況、厳しさが一段と身にしみる日々になっています。「端境期」といえばそうなのですが3月がピークも無くそれほどよくなかったので「景気循環」と関係なく長期のトレンドとして「市場の縮小」が進んでいるとおもいます。

季節的には「梅雨期」に入って雨の日が続くような季節になってきます。

建設業で倒産が急増しつつあるという話もあって厳しい時期が続きそうです。

4月の 地域求人数 (速報値)		対前月 増減比	対前年 同月 増減比
現金 (日払い)	11,034	-19.2%	0.9%
契約 (延べ数)	9,765	-24.2%	13.9%
高齢者清掃 ほか	4,811	-0.6%	4.4%

西成労働福祉(センター)のコメント

国土交通省は抑年3月より公共工事の労務単価を前年同月比5・9%引き上げ、23600円に改めた。この引き上げ率は過去10年で最大である。4月から時間外労働の上限規制に伴う「人手不足感」の解消と「時間外労働の減少による収入減」を補う狙いがあると思われる。

この動きと並行して政府は「建設業法及び公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の一部を改正する法律案」を閣議決定し、労務費引上げの効果が下請まで確実に行き渡る仕組みづくりを進めている。

しかし、現金求人や契約求人の受理を進める中で、今年度賃上げが判明した事業所は僅かだ。実際に公共工事が動き出す7月以降、賃上げの波が地域にも到来するか不透明な状況であり、今後注視していく必要がある。